

紅蓮地獄⑤ 大日の光

暁の雲から光線が射した。神々しい日の出の瞬間である。

雲上で大集団が大日如来の説法を聞いている。聴聞者は、紅蓮地獄でそれぞれ数百年の贖いをつぐなって、この楼閣へ導かれてきた。そのほかにも、蓮の葉のうえで転がり磨かれた水滴が、紅蓮地獄で気化して直接この法座にやってきた者もいる。

全員は畏まって正座している。大日の素光が渦を巻いて聴衆を守護している。どの顔も清らかである。顔をほころばせて説法に耳を傾けている。説法は途切れることがない。この大宇宙は大日如来のことばにあふれていて、声の波長によって、宇宙に様々な現象を起こしている。

今の説法は「煩惱即菩提」について語られている。

「蓮の華は清らかであるが、泥を養分にして咲いている。汝たちの二百年、三百年はただの泥ではない。美しい花を咲かせるための泥である。もともと善悪に区別はない。両者は一体のものである。地獄の経験を無駄にするではないぞ」

大日の励ましのことばである。

「煩惱が悟りの原因になることがある。それは真理の実体を把握しているからである」

「悟っても煩惱を生ずることがある。それは、何かに執着しているからである」

大日のことばはいずれも簡潔であり、真理に通じている。

「紅蓮地獄の辛い経験を無駄にはせず、これを生かすことが大切である」

「煩惱などの魔が現れたならば、慈悲の心を起こすがよい。魔は恐れて退散する」

心温まる更生への道も具体的に示される。

「仏の名を常に呼びなさい。罪が消えていく」

「真言を唱えなさい。無量の功德を得ることができる」

「煩惱を滅するという苦勞は不要である。渋柿が甘柿になるように、汝の渋味をそのまま生かして、汝にしかできない特徴にしなさい」

大日如来の説法は、きわめて平易かつ親切である。聴聞者に希望が湧いてくる。ことばの一句一句に深い意味があり、それらの内容を要約すれば、「即身成仏」「草木成仏」「転迷開悟」「以心伝心」「滅罪生善」「一即多」「一味平等」「和光同塵」などとなる。

説法の記述は多種類のようなものであるが、意味は一つに融けこむ。それゆえに、いかなる部分でも、少し聞くだけで大満足できる。大日の弁舌は自由自在。言説は摩訶不思議。ふところは無尽蔵。その感化は廣大無辺に伝播していく。

永遠に語られている説法は、単純にして明快である。しかし、たった一回の聴聞で、心の闇に光が射す。良心の呵責に気づき、歡喜の涙を流さぬものはいない。

「汝らよ、娑婆世界で希望の光を人々に照らしなさい。こんな楽しい仕事はないよ」

列座一同は、法悦にひたり、大日の教えを信じ、そして娑婆へ戻って、訓示を実行しようと決心した。人間社会に仏の光を照らすことが修行であり、地獄の教訓であると自覚ができたからである。

紅蓮地獄の花弁に熱い水滴が落ちた。大日の説法を聞き終えた隨喜の涙である。

涙の雫は昇天し、娑婆世界に慈雨となって生まれ変わった。

日輪は全宇宙に渦を巻いている。

世界の闇の裏の果てまで、大日の慈光は届かぬところがない。

山川、草木、鳥獸、人天、三千大千世界に不可思議光が燦然と照らしている。